

社会貢献実践		演習	教授 植松 盛夫	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220136 12220153 13220144	

1. 授業のねらい・概要

大学が認定する団体（公共機関，民間団体，NPO など）でのボランティア活動等に参加することによって，地域社会になじみ，関わり，それを深め，地域課題を発見するというプロセスを通じて，問題解決に向けた構想力と実践力を身につけることをねらいとする。

このような学びは，現実にある問題に直面した際に，既存の「マニュアル」にない方法で解決を導くトレーニングであり，今後の学生諸君のライフ・キャリアにおいて重要な力となる。これはまた，現在，本学が積極的に取り組んでいるアクティブ・ラーニング（能動的な学習）の1つでもある。

以上の趣旨から，本講義は，教員が一方向的に学生に知識の伝達をする講義スタイルではなく，学生が自発的に取り組み，グループ学習や現地実習，ディスカッション，結果報告会（プレゼンテーション）などを行うことにより，単位が認定されることになる。

2. 授業の進め方

実習では，学生が希望する実習先の活動期間および活動事項について，大学が認定するボランティア機関の認定を受けてから授業課に届ける。たとえば，下記のようなボランティア活動が考えられる。

- ① 県内の行政との協働
- ② 地域の商工会との協働
- ③ 地域イベント（祭り等）へのボランティア（県，市町村など）
- ④ 関連する学会やボランティア活動の発表会への参加
- ⑤ 県内大学と連携するボランティア活動
- ⑥ 地域NPO・ボランティア団体への参加
- ⑦ その他の地域活動への参加

3. 授業計画

1. ボランティア活動の基礎（講義）	9. ボランティア実習（学習支援）
2. ボランティアの歴史と諸概念（講義）	10. ボランティア実習（高崎祭）
3. ボランティアの実践事例（講義）	11. ボランティア実習（子ども食堂）
4. 災害ボランティアについて（講義）	12. ボランティア実習（しんまち商工祭）
5. 活動計画書の作成（グループ活動・演習）	13. ボランティア実習（白鳥見守り隊）
6. ボランティア活動とSDGs（講義）	14. 活動報告書の作成（演習）
7. 災害に強いまちづくり（講義）	15. 活動結果報告会（プレゼンテーション）
8. ボランティア実習（新町七夕まつり）	（※ボランティア実習については例示である）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・講義計画の講義テーマについて参考文献及び配布資料を講義までに読んでおくこと（30分程度）。
- ・5日間以上（30時間以上）の外部実習を行い，実習後に「社会貢献実践実習報告書」を作成（1件について60分程度），提出し，それに基づいて発表（発表のための資料作成に120分程度）する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「社会貢献実践実習報告書」はコメントをつけて返却する。
活動結果報告会では，講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

- ・一市民として社会貢献実践に参加する意義や活動のなかでの自己の役割やありかたについて理解し、説明できるようになる。
- ・社会貢献実践の学外実習(5日間以上)を行い、大学での学びを実習現場で活用できるようになる。
- ・実習結果と振り返りを実習報告書に報告・提出し、次回の社会貢献実践の学外実習に応用できるようになる。
- ・社会貢献実践の活動結果報告会で1年間の実習結果を発表し、その意義・役割・課題を理解し、活用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

活動計画書、実習報告書などの提出課題内容(60%)と活動報告会での発表(40%)により評価する。

8. テキスト・参考文献

参考文献：田村正勝『ボランティア論-共生の理論と実践』ミネルヴァ書房，2009年
前林清和・中村浩也編著『SDGs時代の社会貢献活動』昭和堂，2021年

9. 受講上の留意事項

学校行事として「学研災」の学生傷害保険が適用されるが、その条件として実習先や日程を大学側に届け出て、必ず承認を得ることが必要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。